

3. 仕事と生活について

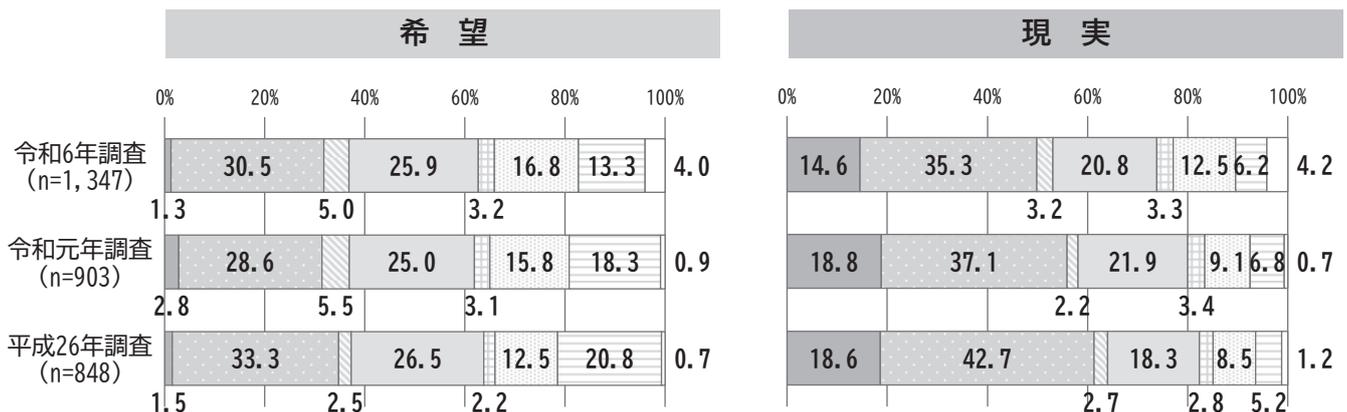
(1) 仕事と生活の希望と現実

問 3-1 生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの希望に最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

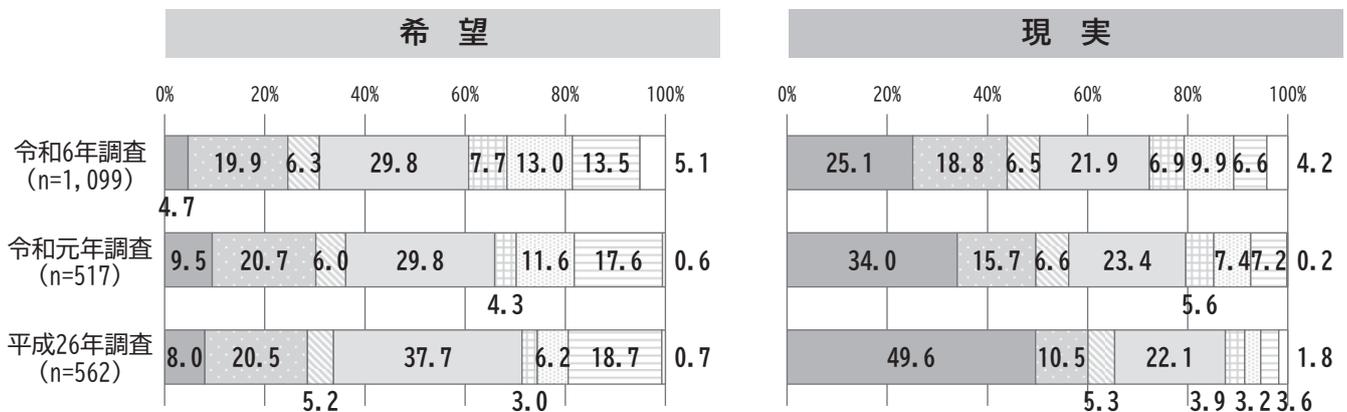
問 3-2 あなたの現実(現状)に最も近いものはどれですか。(〇は1つ)

- 女性の仕事と生活の希望をみると、「家庭生活」を優先が30.5%で最も高く、「仕事」と「家庭生活」をともに優先(25.9%)が続いている。平成26年調査から「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先の割合がわずかながら上昇し、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを優先が低下している。
- 女性の現実と比較すると、「仕事」を優先の割合が希望に比べて10ポイント以上高くなっている。
- 男性の仕事と生活の希望をみると、「仕事」と「家庭生活」をともに優先が29.8%で最も高く、「家庭生活」を優先(19.9%)が続いている。平成26年調査から「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先がわずかながら上昇し、「仕事」と「家庭生活」をともに優先「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを優先がわずかながら低下している。
- 男性の現実と比較すると、「仕事」を優先が希望に比べて20ポイント以上高くなっているが、平成26年調査から比較すると「仕事」を優先の割合は20ポイント以上低下している。

女 性



男 性

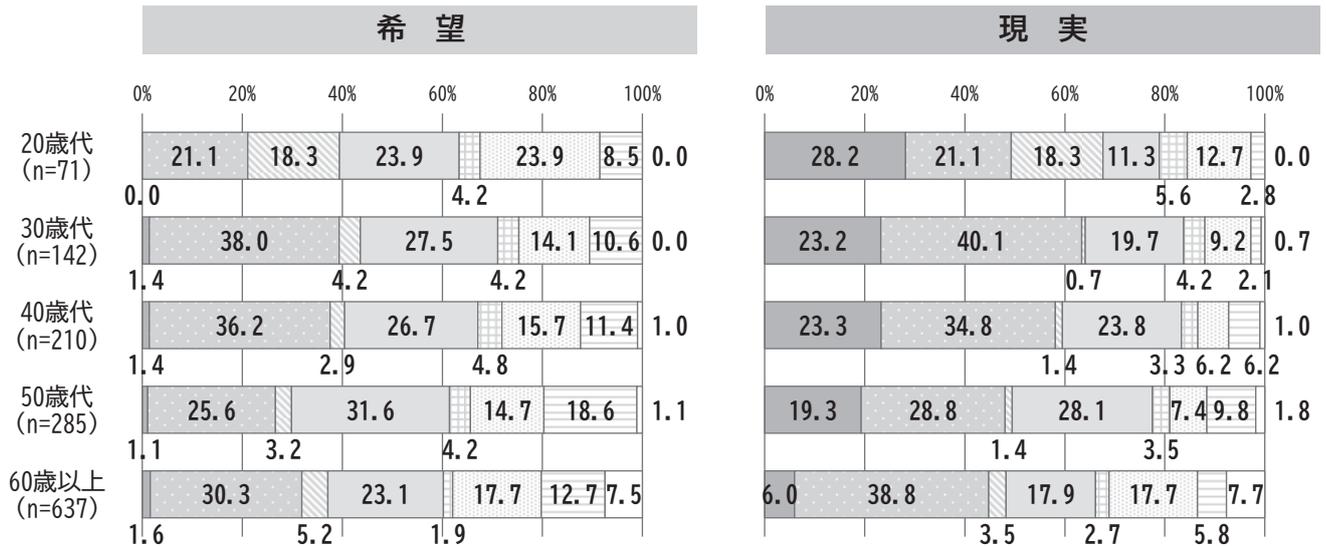


- 「仕事」を優先
- 「家庭生活」を優先
- ▨ 「地域・個人の生活」を優先
- ▨ 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- ▨ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ▨ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ▨ 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを優先
- 無回答

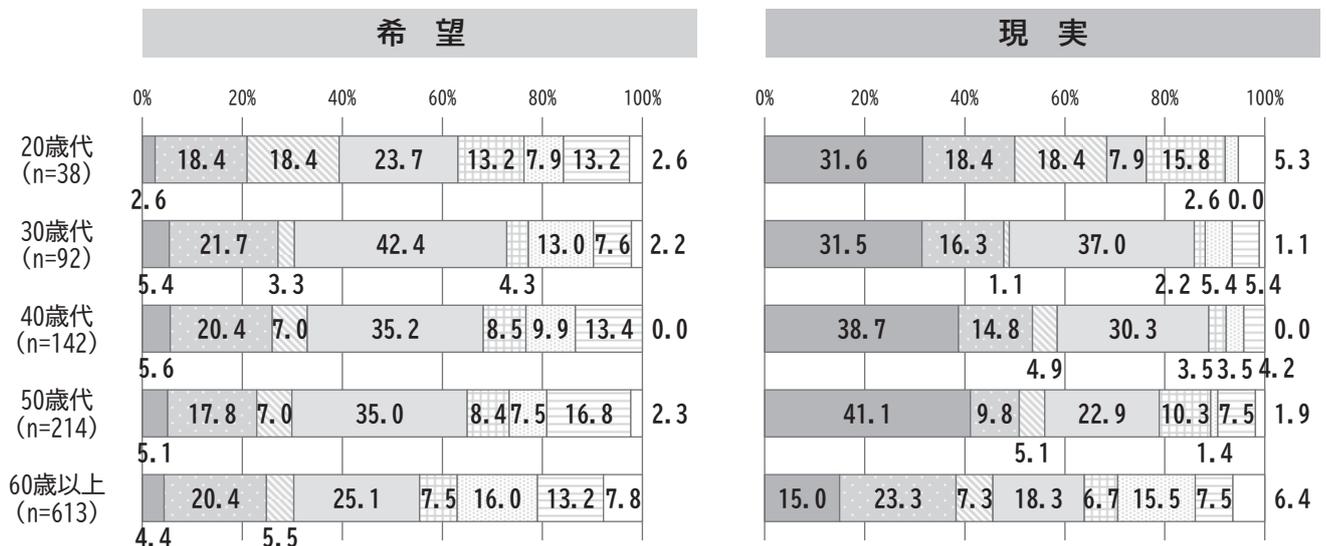
《年代》

- 仕事と生活の希望と現実のギャップを比較すると、男女ともに20歳代から50歳代の現実には「仕事」を優先の割合が希望に比べて10ポイント以上高い。女性は全年代で現実の「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを優先が希望に比べて低い。男性は30歳代から50歳代にかけて「仕事」と「家庭生活」をともに優先、「家庭生活」を優先、「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先が希望に比べて低い。
- 希望と現実のギャップを性別に比較すると、20歳代では男女の傾向に大きな違いがみられないのに対して、30歳代から50歳代にかけて女性は現実において「家庭生活」を優先の割合が男性に比べて高く、男性は現実において「仕事」を優先が女性に比べて高い。

女性



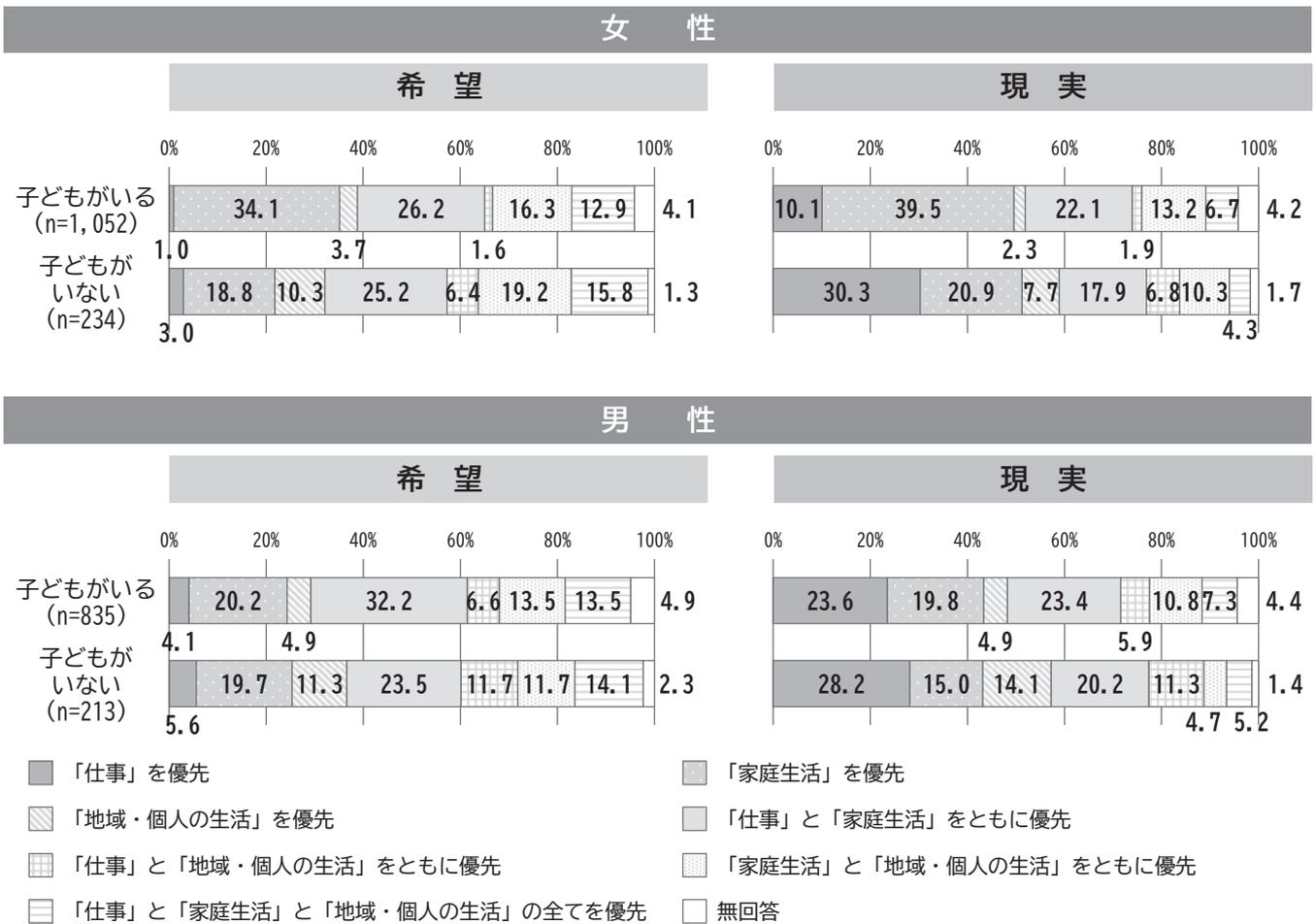
男性



- 「仕事」を優先
- 「家庭生活」を優先
- ▨ 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- ▨ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ▨ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ▨ 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを優先
- 無回答

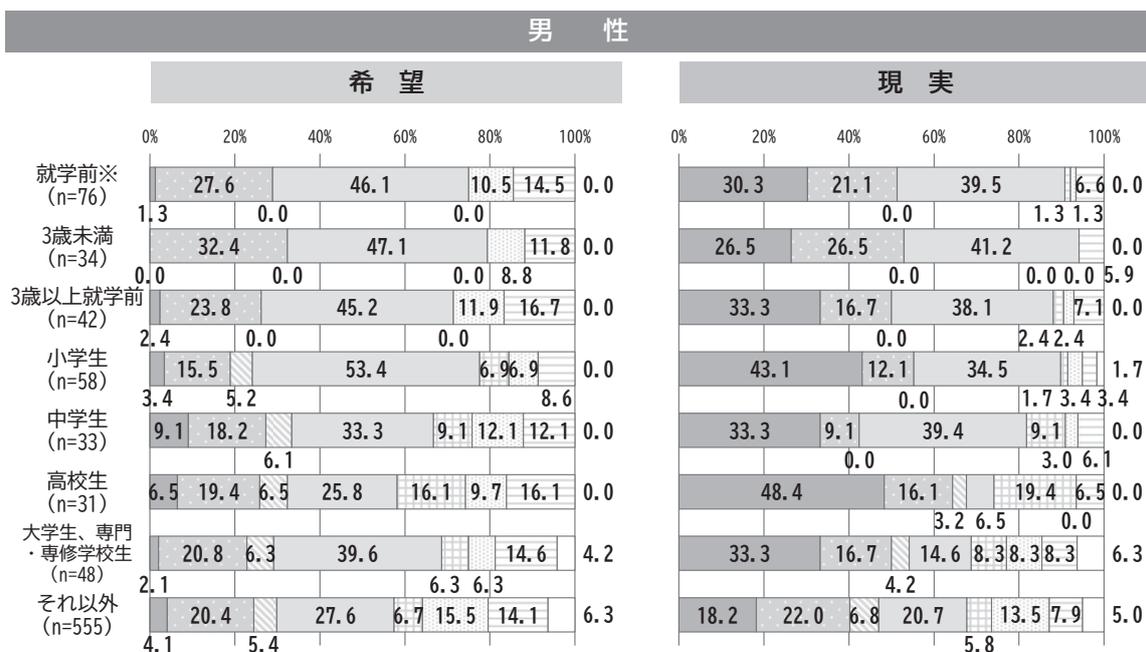
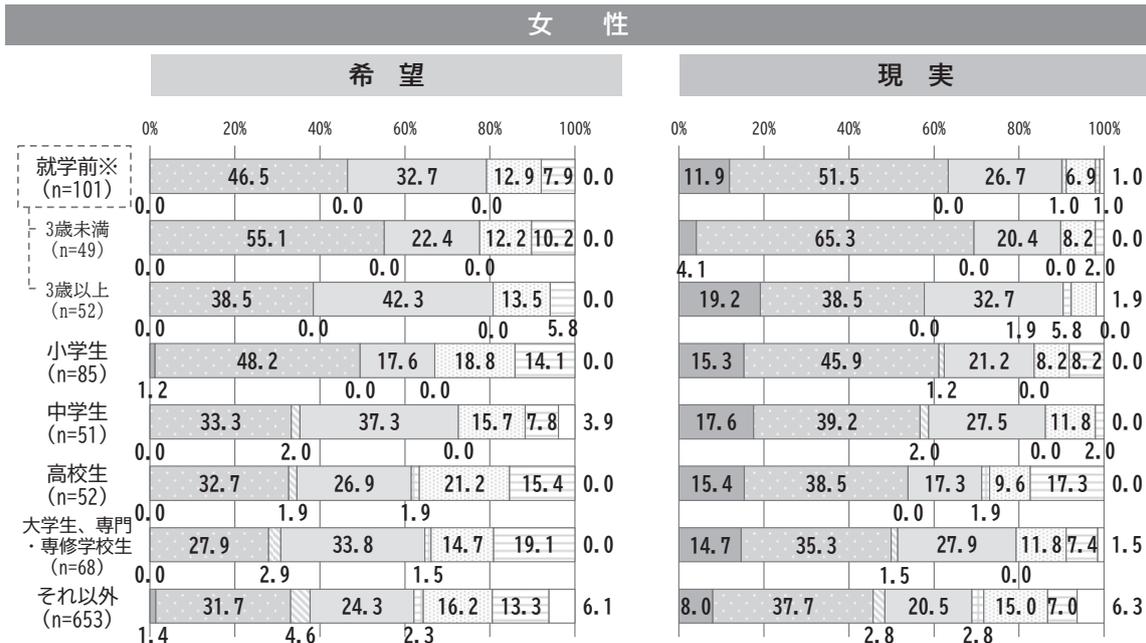
《子どもの有無》

- 仕事と生活の希望と現実をみると、子どもがいる女性は希望・現実ともに「家庭生活」を優先」の割合が3割台で最も高く、「仕事」と「家庭生活」をともに優先」が2割台である。
- 子どもがいる男性は、希望は「仕事」と「家庭生活」をともに優先」の割合が最も高いが、現実では「仕事」を優先」が最も高い。
- 子どもがいない層は男女ともに、希望は「仕事」と「家庭生活」をともに優先」の割合が最も高いが、現実では「仕事」を優先」が最も高い。
- 性別に比較すると、子どもがいる男性の現実「仕事」を優先」の割合が希望に比べて10ポイント以上高いのに対して、子どもがいる女性の現実「仕事」を優先」「家庭生活」を優先」の割合が希望に比べてそれぞれ5ポイント以上高い。子どもがいない層の現実男女ともに「仕事」を優先」の割合が高い。



《末子年齢》

- 末子年齢別に仕事と生活の希望と現実をみると、女性では3歳未満、小学生、高校生、それ以外では希望現実ともに「家庭生活」を優先の割合が最も高い。3歳以上（就学前）、中学生、大学生、専門・専修学校生では希望は「仕事」と「家庭生活」をともに優先が最も高いものの、現実には「家庭生活」を優先が最も高い。
- 男性では就学前、中学生では希望現実ともに「仕事」と「家庭生活」をともに優先の割合が最も高い。小学生、高校生、大学生、専門・専修学校生では希望は「仕事」と「家庭生活」をともに優先が最も高いものの、現実では「仕事」を優先の割合が最も高い。
- 性別に比較すると、末子年齢に関わらず男女ともに希望は「仕事」と「家庭生活」をともに優先や「家庭生活」を優先の割合が高いものの、現実では女性は「家庭生活」を優先が希望より高く、男性は「仕事」を優先が希望より高くなっている。



- 「仕事」を優先
- 「家庭生活」を優先
- ▨ 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- ▨ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ▨ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ▨ 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを優先
- 無回答

※就学前：「3歳未満」「3歳以上」を合わせた回答者

《就労状況》

- 就労状況別に仕事と生活の希望と現実をみると、男女ともに正規職員は希望では「仕事」と「家庭生活」をともに優先」の割合が最も高いものの、現実では「仕事を優先」の割合が最も高い。非正規職員は希望・現実ともに「仕事」と「家庭生活」をともに優先」「家庭生活」を優先」の割合が高いものの、現実では希望に比べて「仕事を優先」の割合が10ポイント以上高くなっている。
- 性別に比較すると、正規職員は希望・現実ともに大きな差はみられないが、女性非正規職員は希望・現実ともに「家庭生活」を優先」の割合が男性に比べて高くなっている。その他女性は「家庭生活」を優先」の割合が男性に比べて高く、その他男性は「仕事を優先」が女性に比べて高い。

女性



男性



- 「仕事」を優先
- 「家庭生活」を優先
- 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを優先
- 無回答

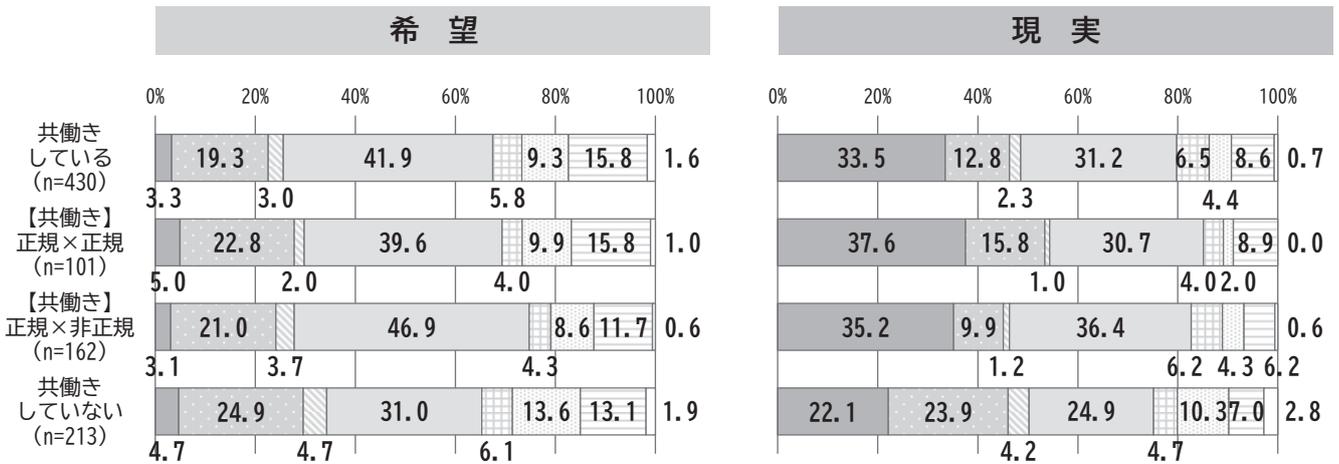
《共働き状況》

- 共働き状況別に仕事と生活の希望と現実をみると、男女ともに【共働き】正規×正規層の希望は「仕事」と「家庭生活」をともに優先の割合が最も高いが、現実には「仕事」を優先の割合が希望に比べて30ポイント以上高い。
- 【共働き】正規×非正規層は、女性では希望・現実ともに「家庭生活」を優先の割合が最も高い。男性では希望・現実ともに「仕事」と「家庭生活」をともに優先の割合が最も高いものの、現実では「仕事」を優先の割合が希望に比べて30ポイント以上高くなっている。

女性



男性



- 「仕事」を優先
- 「家庭生活」を優先
- ▨ 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- ▨ 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- ▨ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを優先
- 無回答

(2) 配偶者の仕事と生活の希望と現実

問 3-4 配偶者・パートナーの生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度について、あなたご自身の希望に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

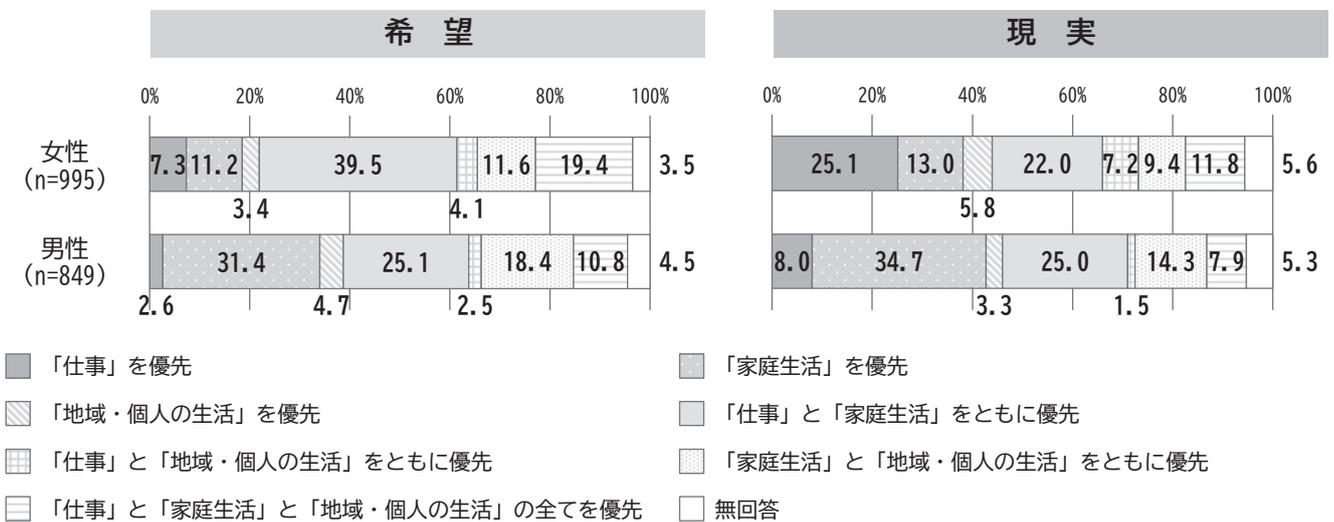
※現在配偶者・パートナーがいない方も、配偶者・パートナーがいた場合を想定してお答えください

問 3-5 配偶者・パートナーがいる方のみにお聞きします。

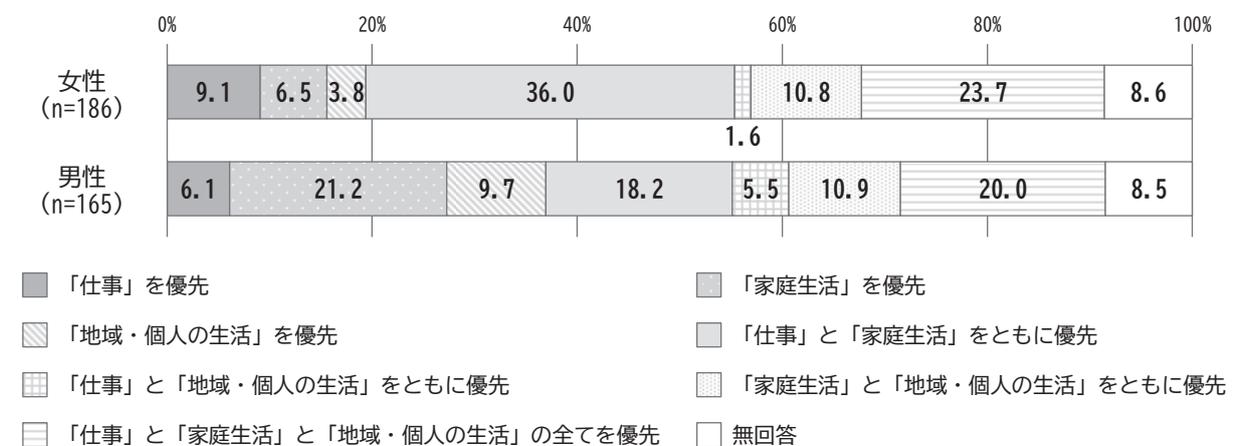
配偶者・パートナーの現実に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

- 配偶者に対する仕事と生活の希望と現実について、女性の希望は「仕事」と「家庭生活」をともに優先の割合が最も高いものの、現実では「仕事」を優先の割合が最も高い。
- 男性では希望・現実ともに「家庭生活」を優先が最も高く、「仕事」と「家庭生活」をともに優先が続いている。
- 未婚者における配偶者の仕事と生活の希望は、女性では既婚者の希望と大きな差はみられない。男性では「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを優先、「地域・個人の生活」を優先の割合が既婚男性の希望に比べて5ポイント以上高い。

■既婚



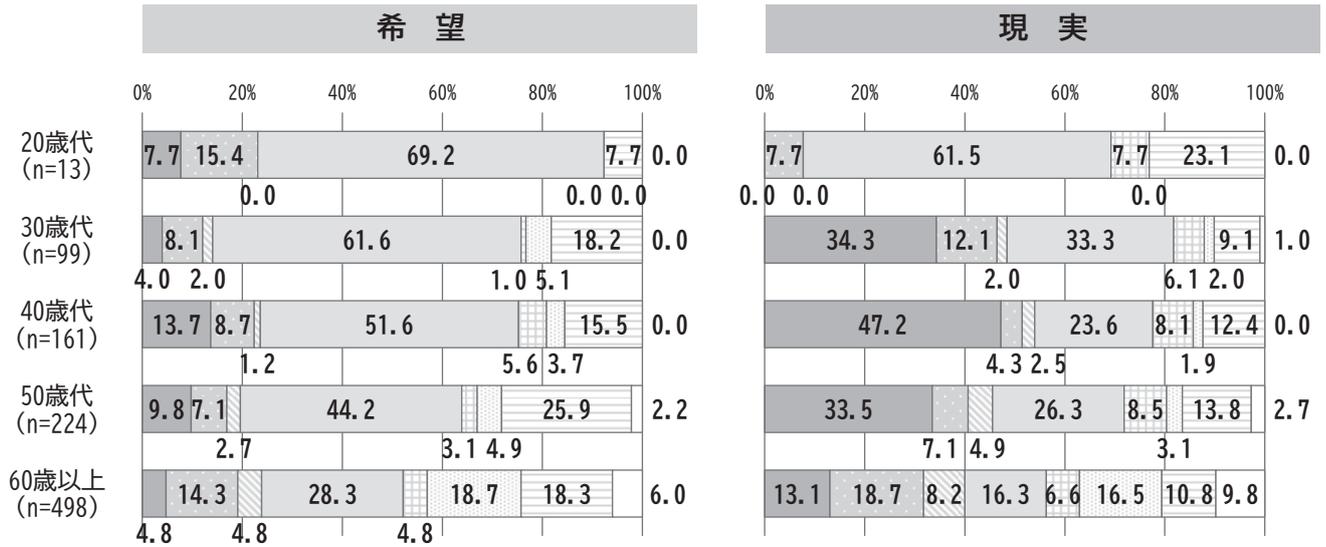
■未婚：希望



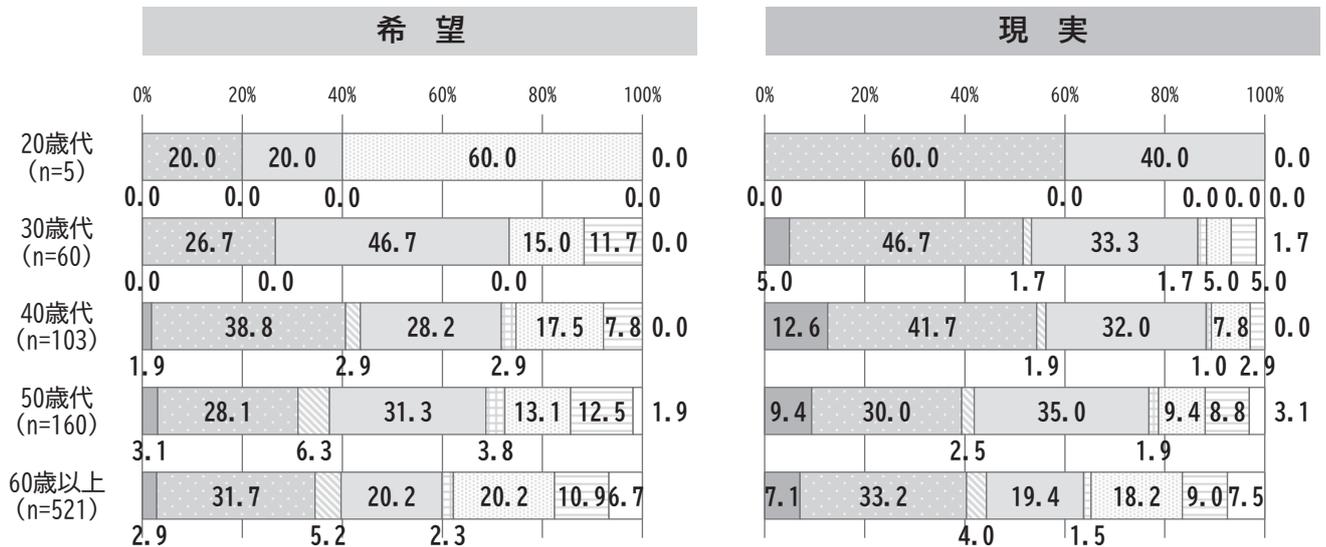
《年代：既婚》

- 配偶者に対する仕事と生活の希望と現実のギャップを比較すると、女性は30歳代から40歳代の現実には「仕事」を優先の割合が希望に比べて20ポイント以上高く、「仕事」と「家庭生活」とともに優先が20ポイント以上低い。男性では、30歳代の現実には「家庭生活」を優先の割合が希望に比べて20.0ポイント高く、「仕事」と「家庭生活」とともに優先」「家庭生活」と「地域・個人の生活」とともに優先が10ポイント以上低い。男女ともに30歳代から40歳代では希望と現実のギャップが50歳代以降に比べて大きい。
- 希望と現実のギャップを性別に比較すると、30歳代以上の女性は希望と現実のギャップが同年代の男性に比べて大きく、その差は30歳代から40歳代にかけて増大している。

女 性



男 性



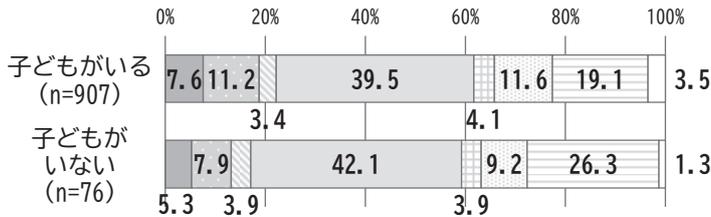
- 「仕事」を優先
- 「家庭生活」を優先
- ▨ 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」とともに優先
- ▨ 「仕事」と「地域・個人の生活」とともに優先
- ▨ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」とともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを優先
- 無回答

《子どもの有無：既婚》

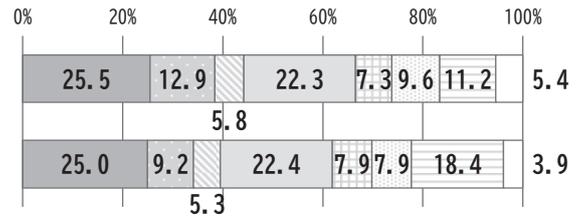
- 子どもの有無別に配偶者の仕事と生活の希望と現実をみると、女性では子どもの有無に関わらず、希望は「仕事」と「家庭生活」とともに優先」の割合が最も高いものの、現実では「仕事」を優先」が最も高い。
- 子どもがいる男性は、配偶者への希望・現実ともに「家庭生活」を優先」の割合が最も高い。子どもがいない男性の希望は「仕事」と「家庭生活」とともに優先」が最も高いものの、現実では「家庭生活」を優先」の割合が最も高い。

女 性

希 望

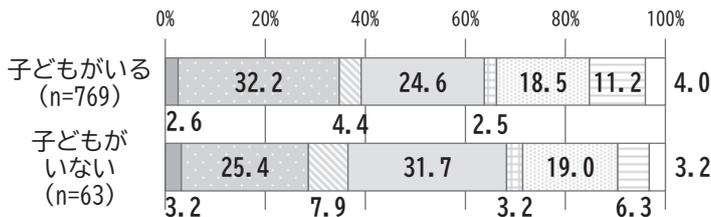


現 実

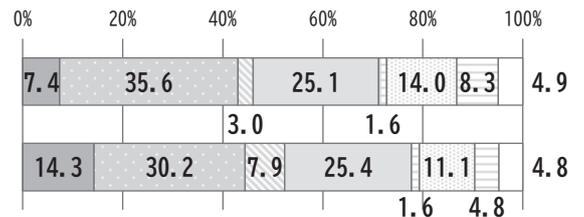


男 性

希 望



現 実



- 「仕事」を優先
- 「家庭生活」を優先
- ▨ 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」とともに優先
- ▨ 「仕事」と「地域・個人の生活」とともに優先
- ▨ 「家庭生活」と「地域・個人の生活」とともに優先
- ▨ 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを優先
- 無回答

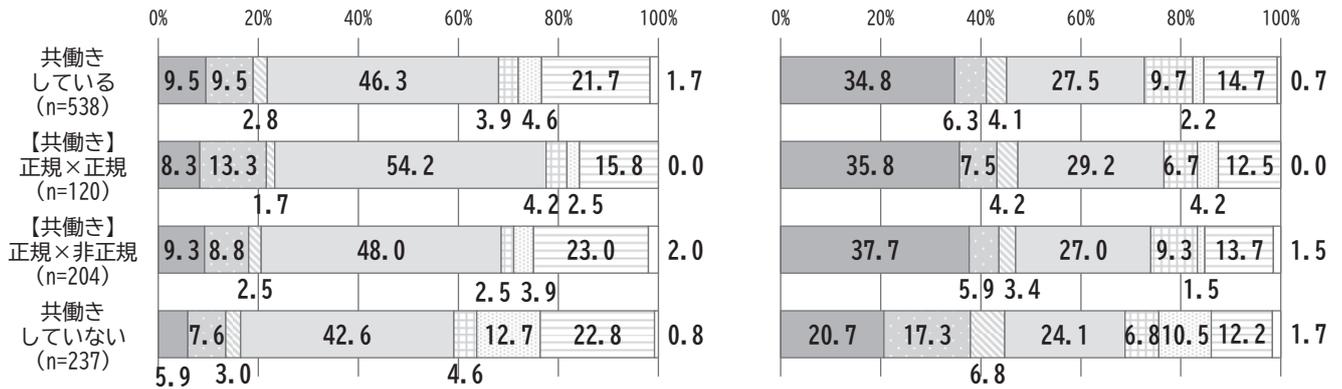
《共働き状況：既婚》

- 共働き状況別に配偶者の仕事と生活の希望と現実をみると、女性では共働きしている層は正規×正規、正規×非正規に関わらず、希望は「仕事」と「家庭生活」をともに優先の割合が最も高いものの、現実では「仕事」を優先が最も高い。
- 男性では、共働きしている層は正規×正規、正規×非正規に関わらず、希望・現実ともに「仕事」と「家庭生活」をともに優先の割合が最も高い。

女 性

希 望

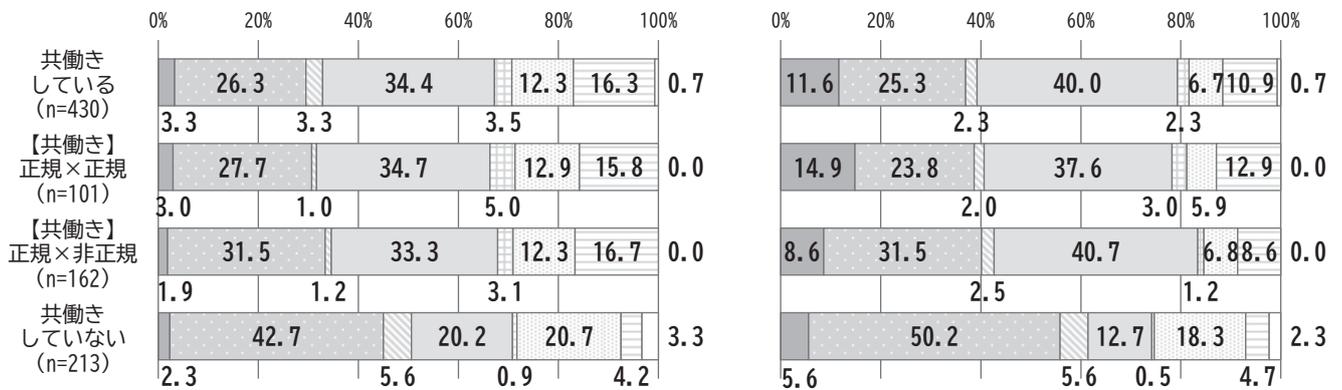
現 実



男 性

希 望

現 実



- 「仕事」を優先
- 「家庭生活」を優先
- 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを優先
- 無回答

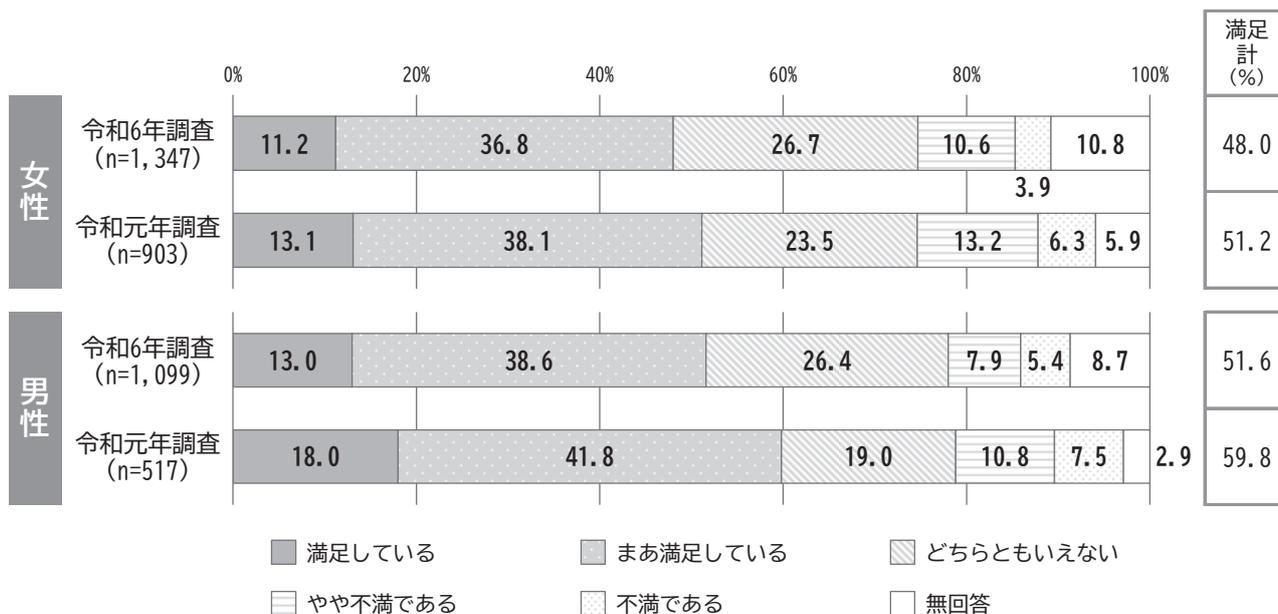
(3) 仕事の満足度

問 3-3 あなたの「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」にそれぞれどの程度満足していますか。
(それぞれ〇はひとつずつ)

①仕事

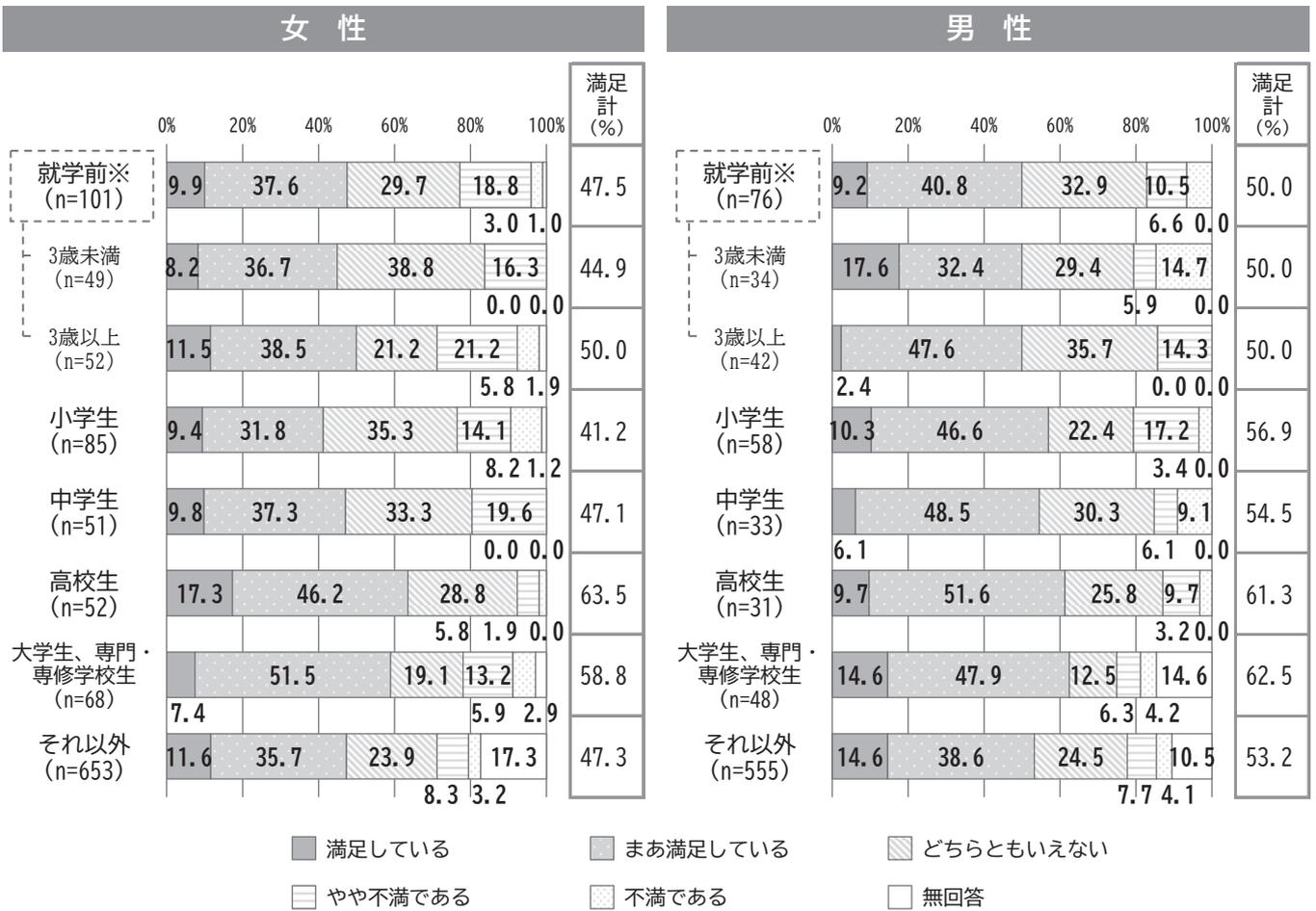
※「仕事」については、現在仕事をしていない場合は、その状況についてお聞かせ下さい。

- 女性では、「満足している」(11.2%)、「まあ満足している」(36.8%)をあわせた満足計は48.0%である。令和元年調査と比較して大きな差はみられない。
- 男性では、「満足している」(13.0%)、「まあ満足している」(38.6%)をあわせた満足計は51.6%である。令和元年調査と比較して5ポイント以上低下している。
- 性別に比較して大きな差はみられない。



《末子年齢》

- 末子年齢別に満足計をみると、女性では高校生で63.5%と最も高く、大学生、専門・専修学校生（58.8%）が続いている。
- 男性の満足計は、大学生、専門・専修学校生で62.5%と最も高く、高校生（61.3%）が続いている。
- 性別に比較すると、女性の満足計は小学生で41.2%と、男性（56.9%）に比べて10ポイント以上低い。

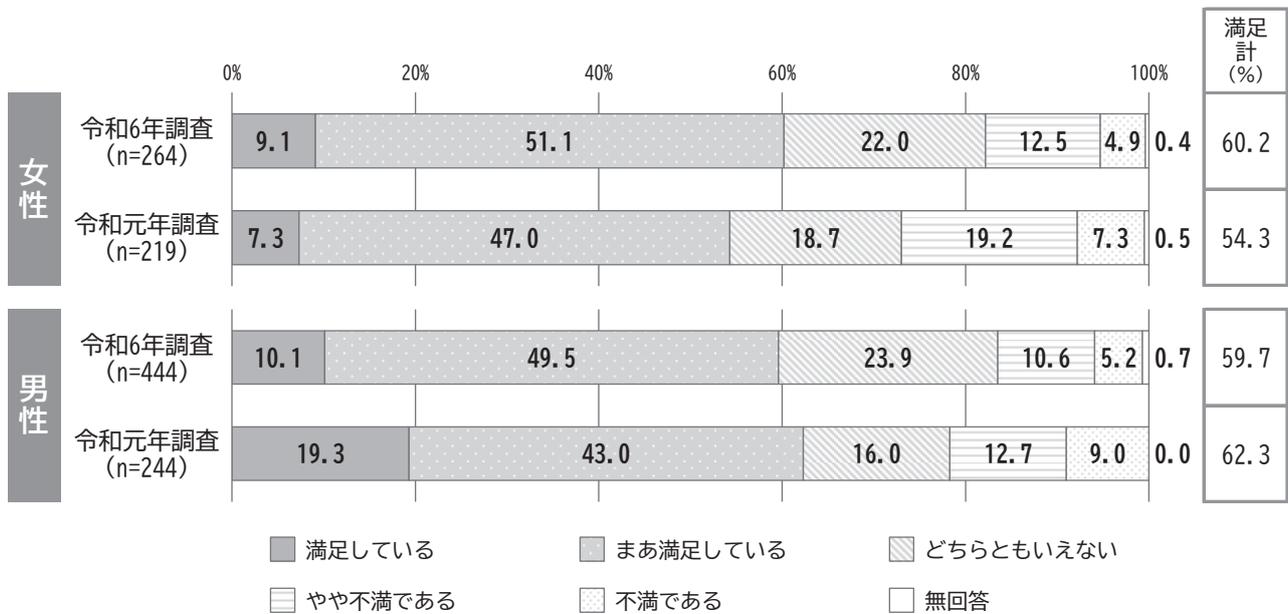


※就学前：「3歳未満」「3歳以上」をあわせた回答者

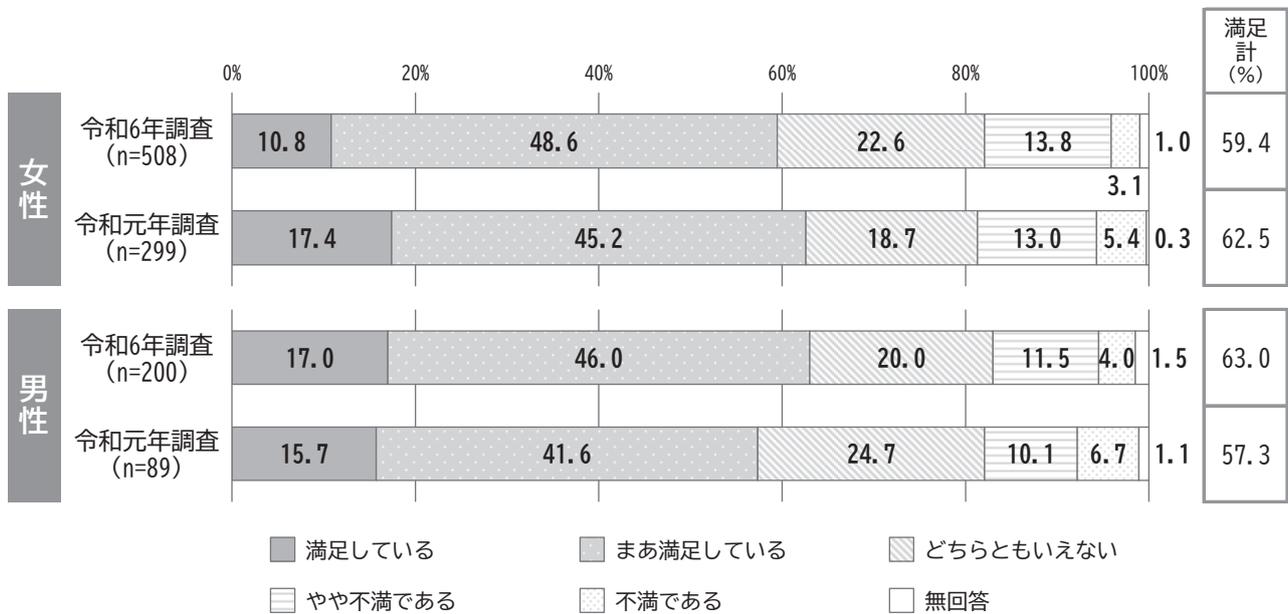
《就労状況》

- 就労状況別にみると、女性正規職員の満足計は60.2%で令和元年調査と比べて5ポイント以上上昇している。男性正規職員の満足計は59.7%で令和元年調査と比べて大きな低下はみられないが、「満足している」の割合は5ポイント以上低下している。
- 女性非正規職員の満足計は59.4%で令和元年調査と比べて大きな低下はみられないが、「満足している」の割合は5ポイント以上低下している。男性非正規職員の満足計は63.0%で、前回から5ポイント以上上昇している。
- 性別には大きな差は見られない。

■正規職員

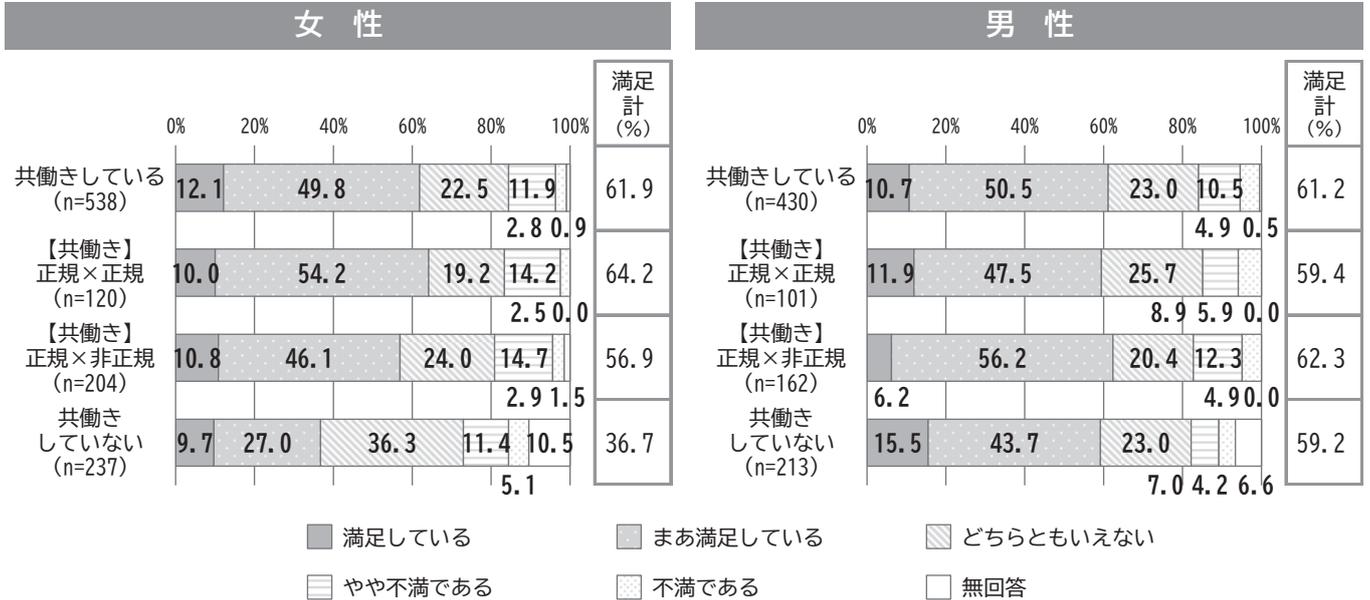


■非正規職員



《共働き状況》

- 共働き状況別に満足計をみると、女性では【共働き】正規×正規層で64.2%と、【共働き】正規×非正規層(56.9%)に比べて5ポイント以上高い。共働きしていない層では36.7%である。
- 男性では、共働き状況で大きな差はみられない。
- 性別に比較すると、【共働き】正規×正規層では女性の満足計は男性に比べて4.8ポイント高く、【共働き】正規×非正規層では男性の満足計が女性に比べて5ポイント以上高い。



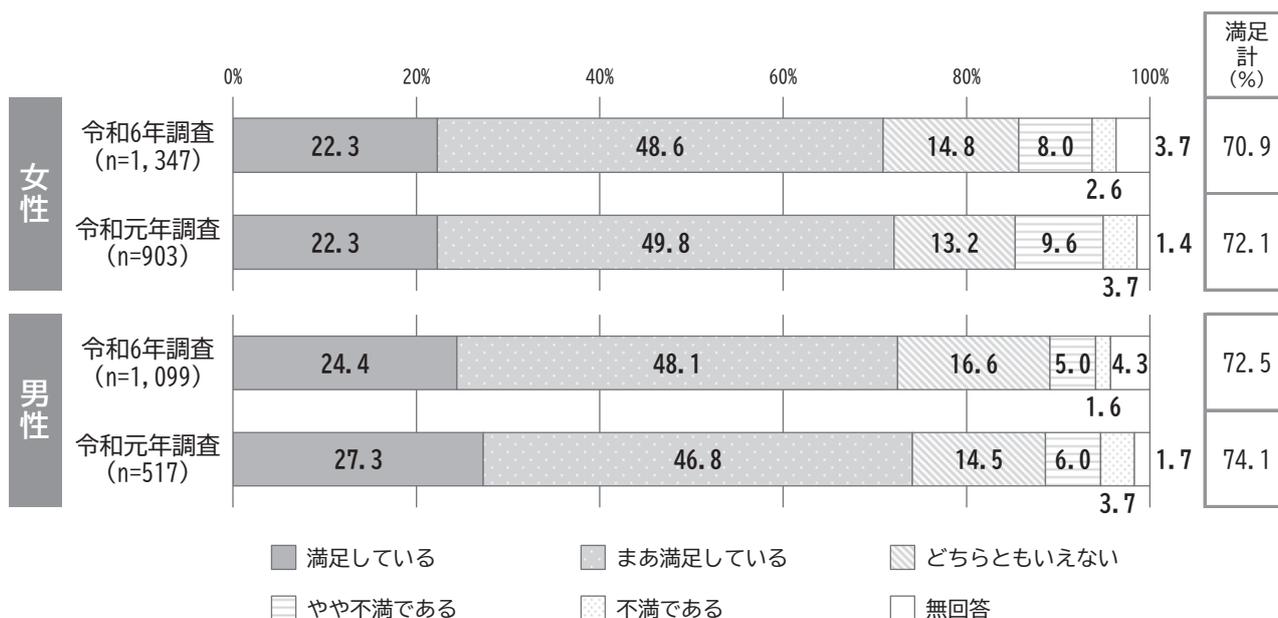
(4) 家庭生活の満足度

問 3-3 あなたの「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」にそれぞれどの程度満足していますか。
(それぞれ〇はひとつずつ)

②家庭生活

※「家庭生活」については、一人で生活しておられる方は、その状況も含めてお考え下さい。

- 女性では、「満足している」(22.3%)、「まあ満足している」(48.6%)をあわせた満足計は70.9%である。令和元年調査と比較して大きな差はみられない。
- 男性では、「満足している」(24.4%)、「まあ満足している」(48.1%)をあわせた満足計は72.5%である。令和元年調査と比較して大きな差はみられない。
- 性別に比較して大きな差はみられない。



《末子年齢》

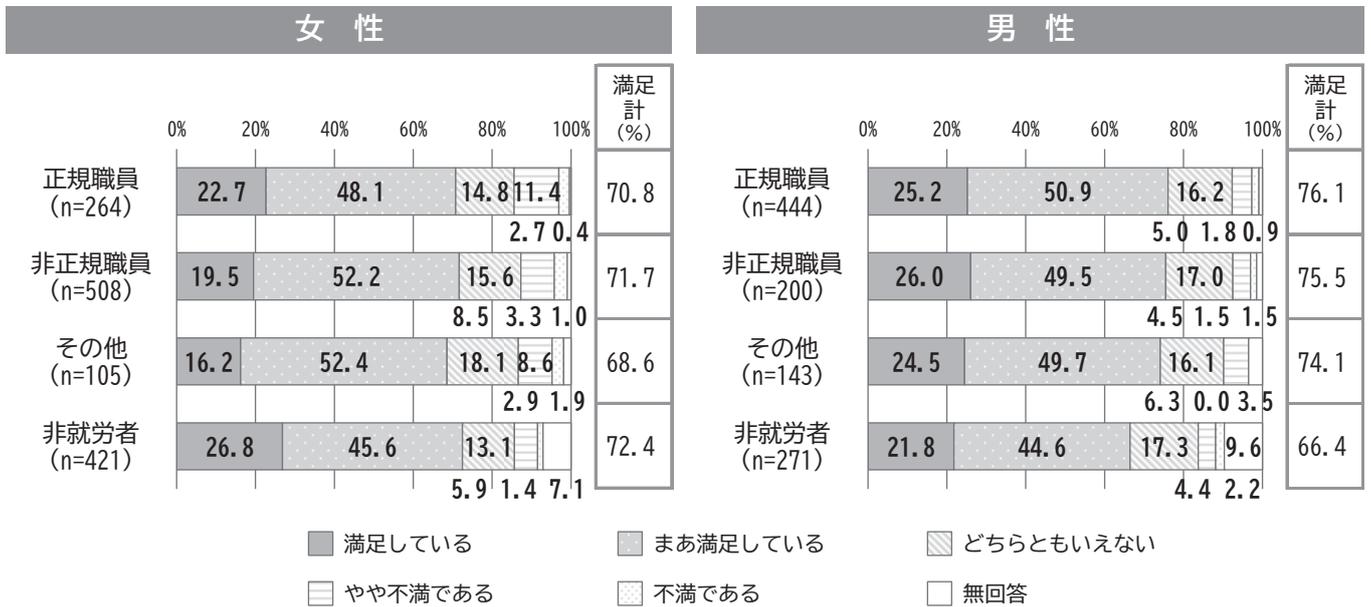
- 末子年齢別に満足計をみると、女性では3歳未満で83.7%と最も高く、高校生までは子どもの末子年齢が高くなるほど満足計が低下している。
- 男性の満足計は、3歳未満で88.2%と最も高く、小学生（81.0%）が続いている。
- 性別に比較すると、女性の満足計は3歳以上就学前、小学生、中学生、高校生、それ以外で男性に比べて5ポイント以上低い。



※就学前：「3歳未満」「3歳以上」をあわせた回答者

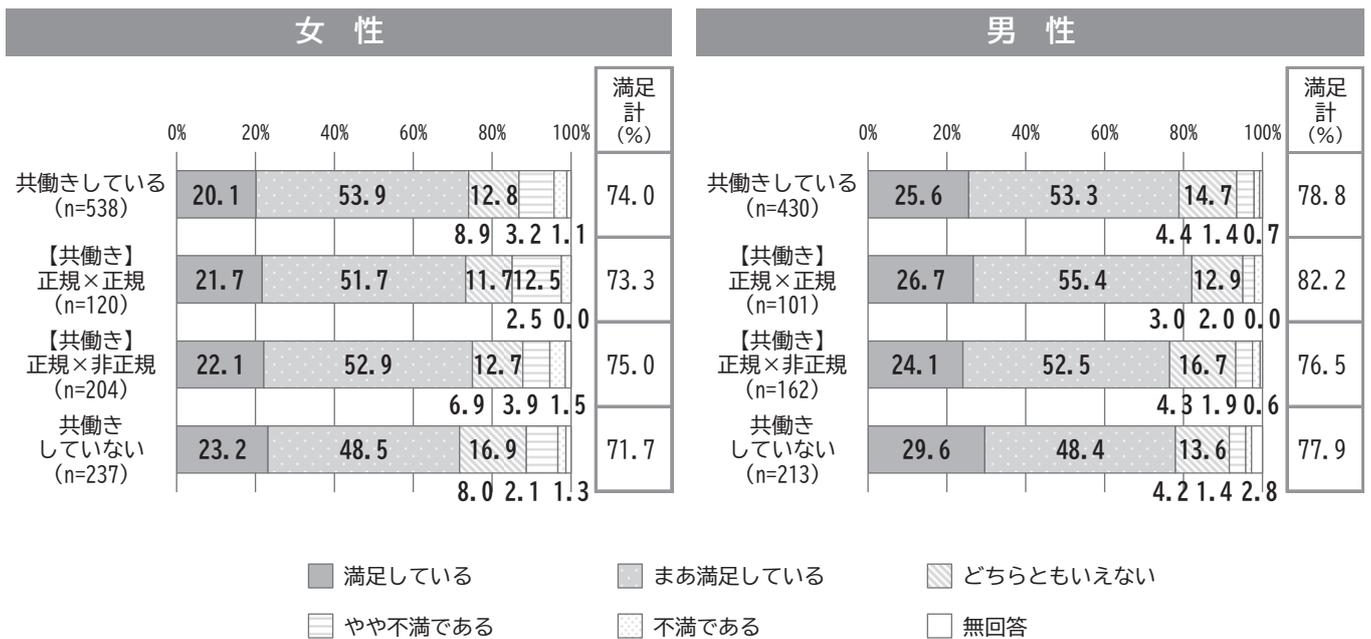
《就労状況》

- 就労状況別に満足計をみると、女性では就労状況別に大きな差はみられない。
- 男性の満足計は、非就労者では66.4%と、就労している層に比べて5ポイント以上低い。
- 性別に比較すると、女性非就労者の満足計は男性に比べて5ポイント以上高く、男性正規職員の満足計は女性に比べて5ポイント以上高い。



《共働き状況》

- 共働き状況別に満足計をみると、女性は共働き状況別に大きな差はみられない。
- 男性の満足計は、【共働き】正規×正規層で82.2%と、【共働き】正規×非正規層に比べて5ポイント以上高い。
- 性別に比較すると、女性では【共働き】正規×正規層や共働きしていない層の満足計は男性に比べて5ポイント以上低い。



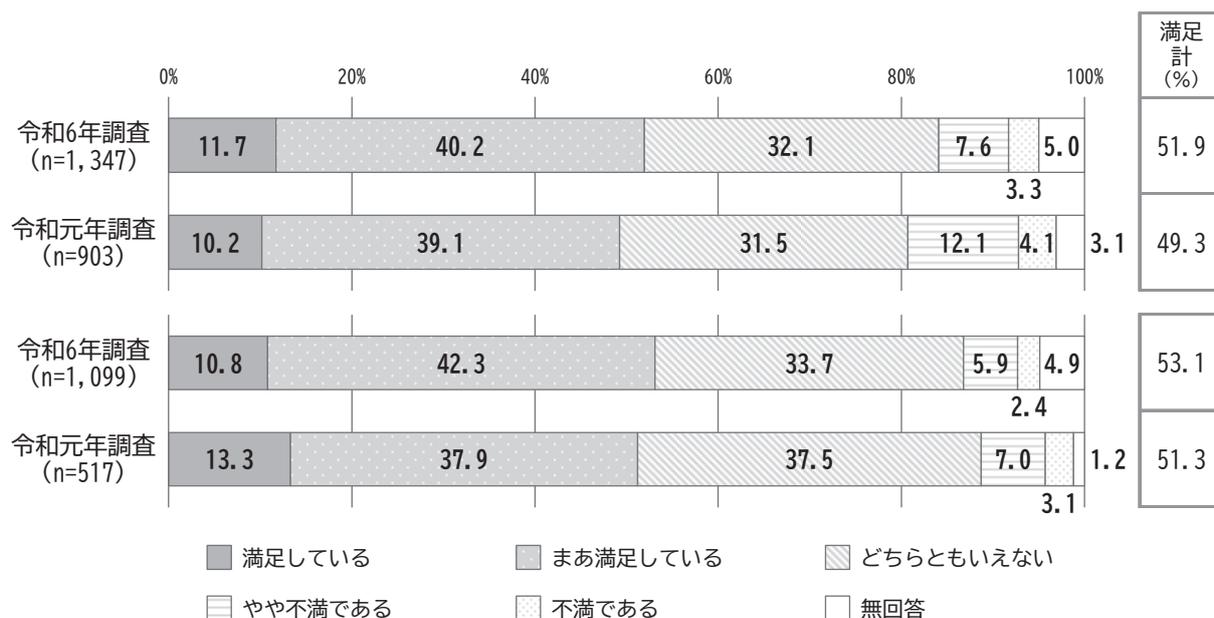
(5) 地域・個人の生活の満足度

問 3-3 あなたの「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」にそれぞれどの程度満足していますか。
(それぞれ〇はひとつずつ)

③地域・個人の生活

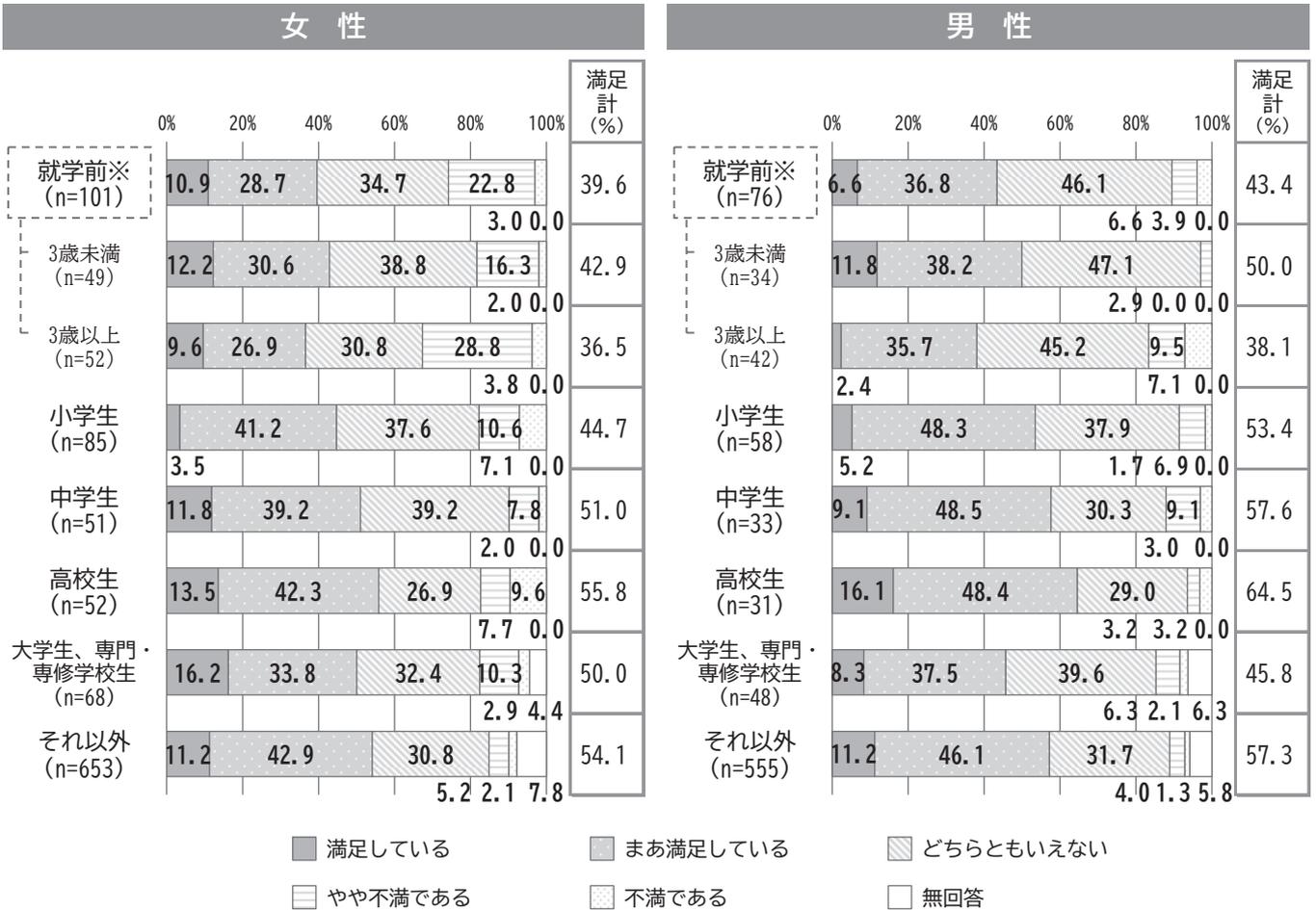
※「地域」には、地域での近所付き合いやスポーツ・趣味、社会貢献活動等を含めてお考え下さい。

- 女性では、「満足している」(11.7%)、「まあ満足している」(40.2%)をあわせた満足計は51.9%である。令和元年調査と比較して大きな差はみられない。
- 男性では、「満足している」(10.8%)、「まあ満足している」(42.3%)をあわせた満足計は53.1%である。令和元年調査と比較して大きな差はみられない。
- 性別に比較して大きな差はみられない。



《末子年齢》

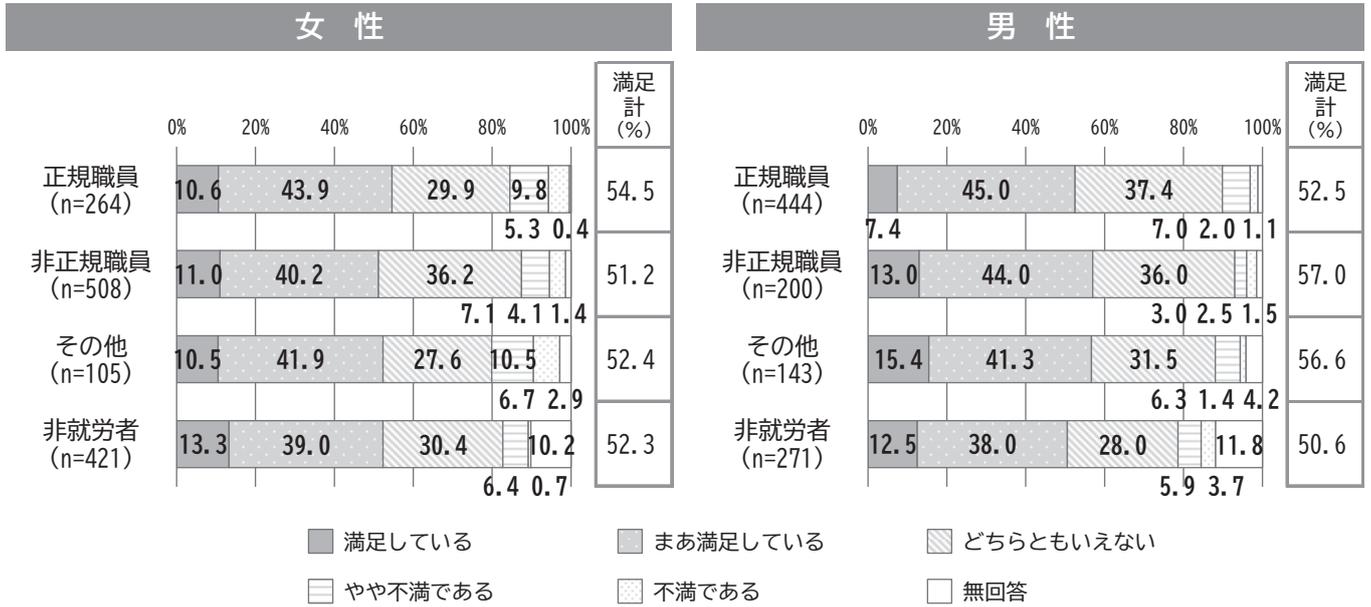
- 末子年齢別に満足計をみると、女性では3歳以上（就学前）で36.5%と最も低く、高校生までは学齢が上がるほどに満足計は上昇している。
- 男性の満足計は、3歳以上（就学前）で38.1%と最も低く、高校生までは学齢が上がるほどに満足計は上昇している。
- 性別に比較すると、女性では3歳未満、小学生、中学生、高校生で満足計が男性に比べて5ポイント以上低くなっている。



※就学前：「3歳未満」「3歳以上」をあわせた回答者

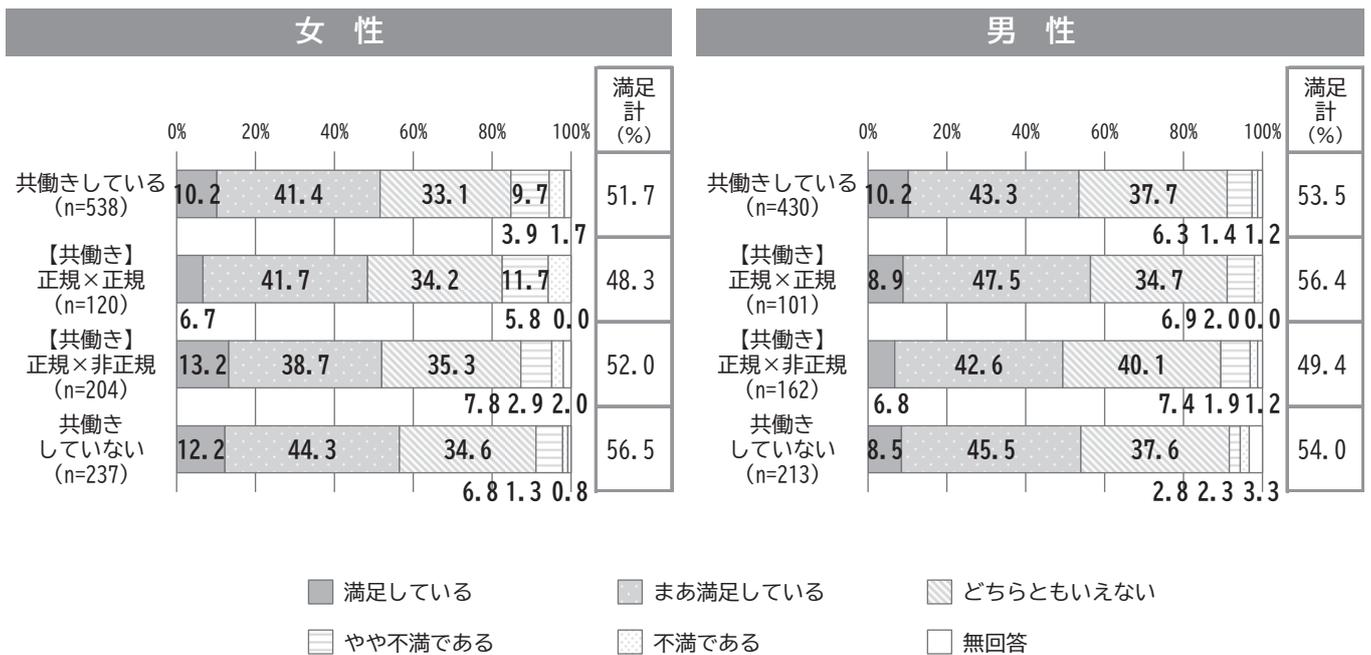
《就労状況》

- 就労状況別に満足計をみると、女性では就労状況別に大きな差はみられない。
- 男性の満足計は、非就労者では50.6%と、非正規職員やその他に比べて5ポイント以上低い。
- 性別に比較すると、女性非正規職員の満足計が男性非正規職員に比べて5ポイント以上低い。



《共働き状況》

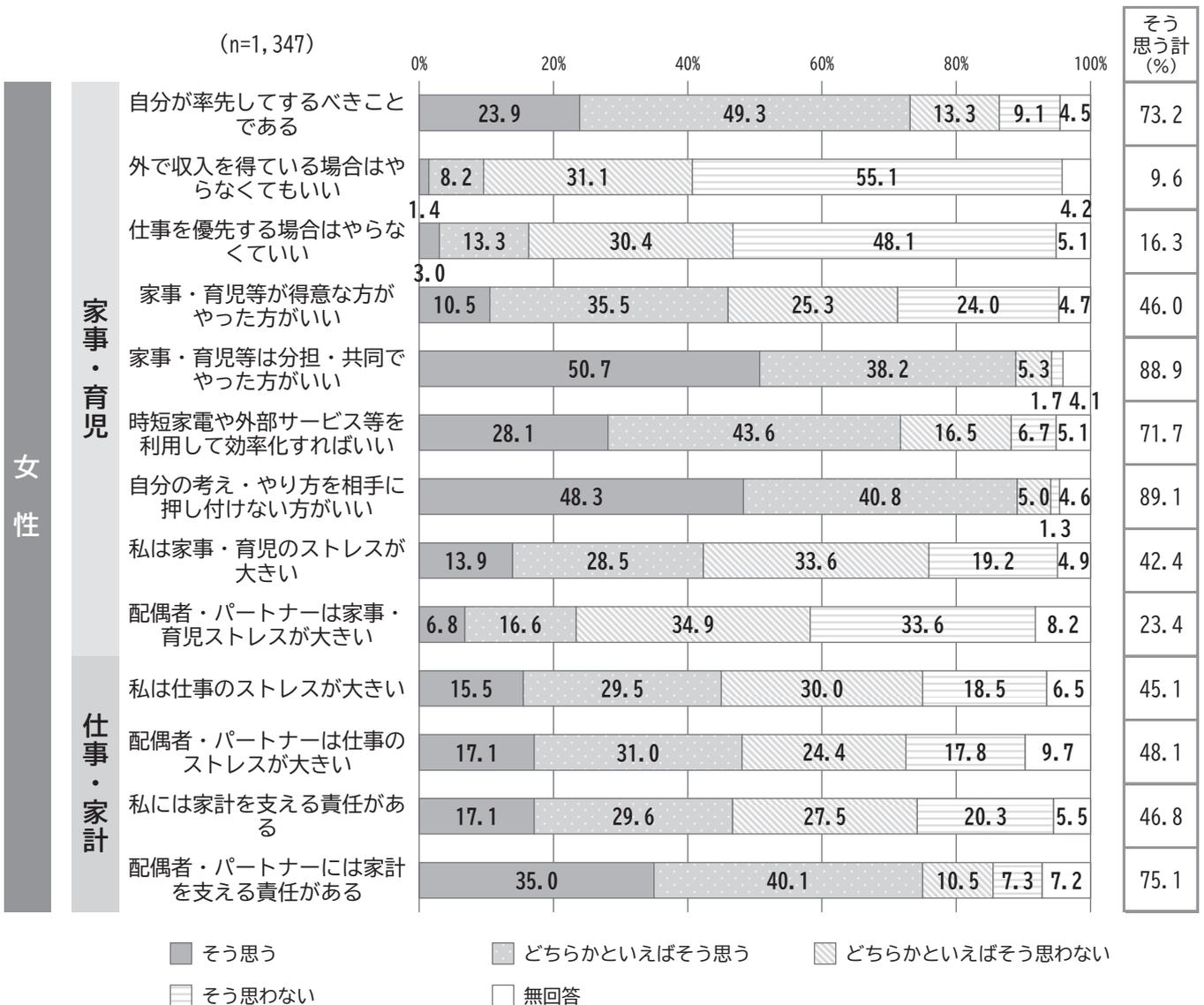
- 共働き状況別に満足計をみると、女性では【共働き】正規×正規層で48.3%と、共働きしていない層に比べて5ポイント以上低い。
- 男性の満足計は、【共働き】正規×正規層で56.4%と、【共働き】正規×非正規層に比べて5ポイント以上高い。
- 性別に比較すると、【共働き】正規×正規層では、女性の満足計は男性に比べて5ポイント以上低い。その他の層では大きな差はみられない。



(6) 家庭や仕事に関する考え方

問 3-6 家庭や仕事に関するあなたの考えや気持ちについて次にあげる項目それぞれについてお聞かせください。(それぞれ○は1つつ)

- 家事・育児の考え方について「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」をあわせたそう思う計をみると、男女ともに「自分の考え・やり方を相手に押し付けない方がいい」「家事・育児等は分担・共同でやった方がいい」「自分が率先してすべきことである」の割合が7割を超えている。それ以外に、女性では「時短家電や外部サービス等を利用して効率化すればいい」も7割を超えている。
- 性別に比較すると、女性では「私は家事・育児のストレスが大きい」「時短家電や外部サービス等を利用して効率化すればいい」の割合が男性に比べて10ポイント以上高く、男性では「配偶者・パートナーは家事・育児ストレスが大きい」の割合が女性に比べて30ポイント以上高い。
- 仕事・家計の考え方について、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」をあわせたそう思う計をみると、女性では「配偶者・パートナーには家計を支える責任がある」の割合が、男性では「私には家計を支える責任がある」の割合が7割を超えている。
- 性別に比較すると女性では「配偶者・パートナーには家計を支える責任がある」の割合が男性に比べて40ポイント以上高い。男性では「私には家計を支える責任がある」の割合が女性に比べて30ポイント以上高い。

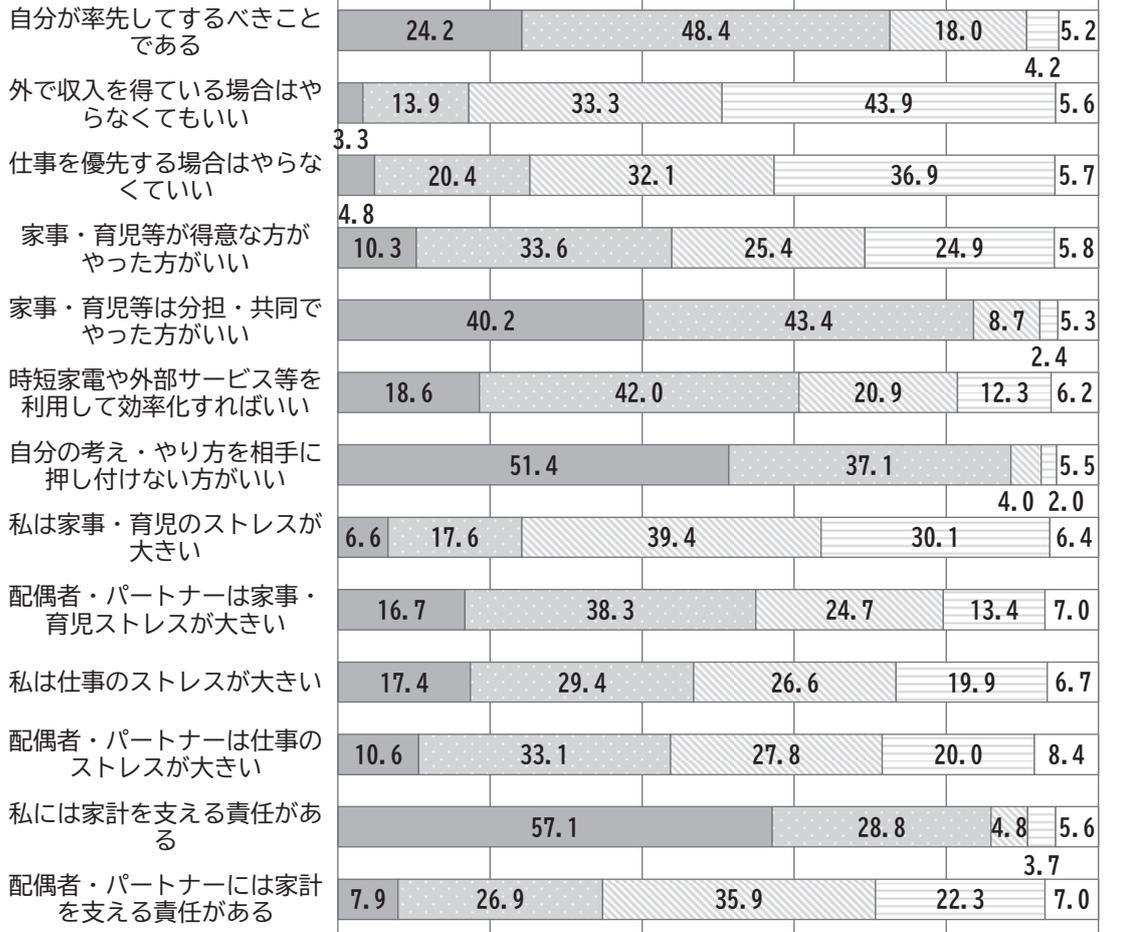


男性

(n=1,099)

家事・育児

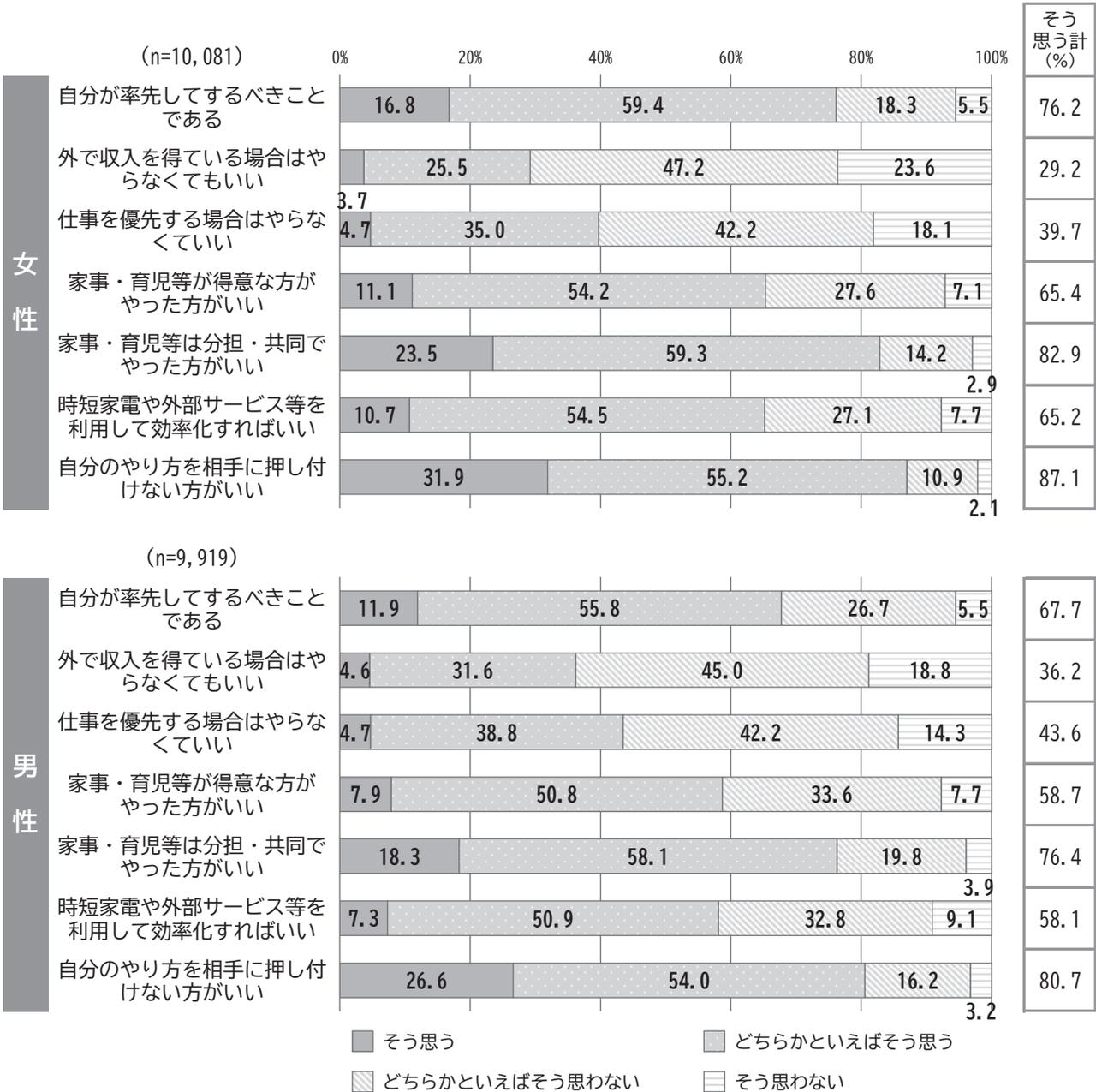
仕事・家計



そう思う
 どちらかといえばそう思う
 どちらかといえばそう思わない
 そう思わない
 無回答

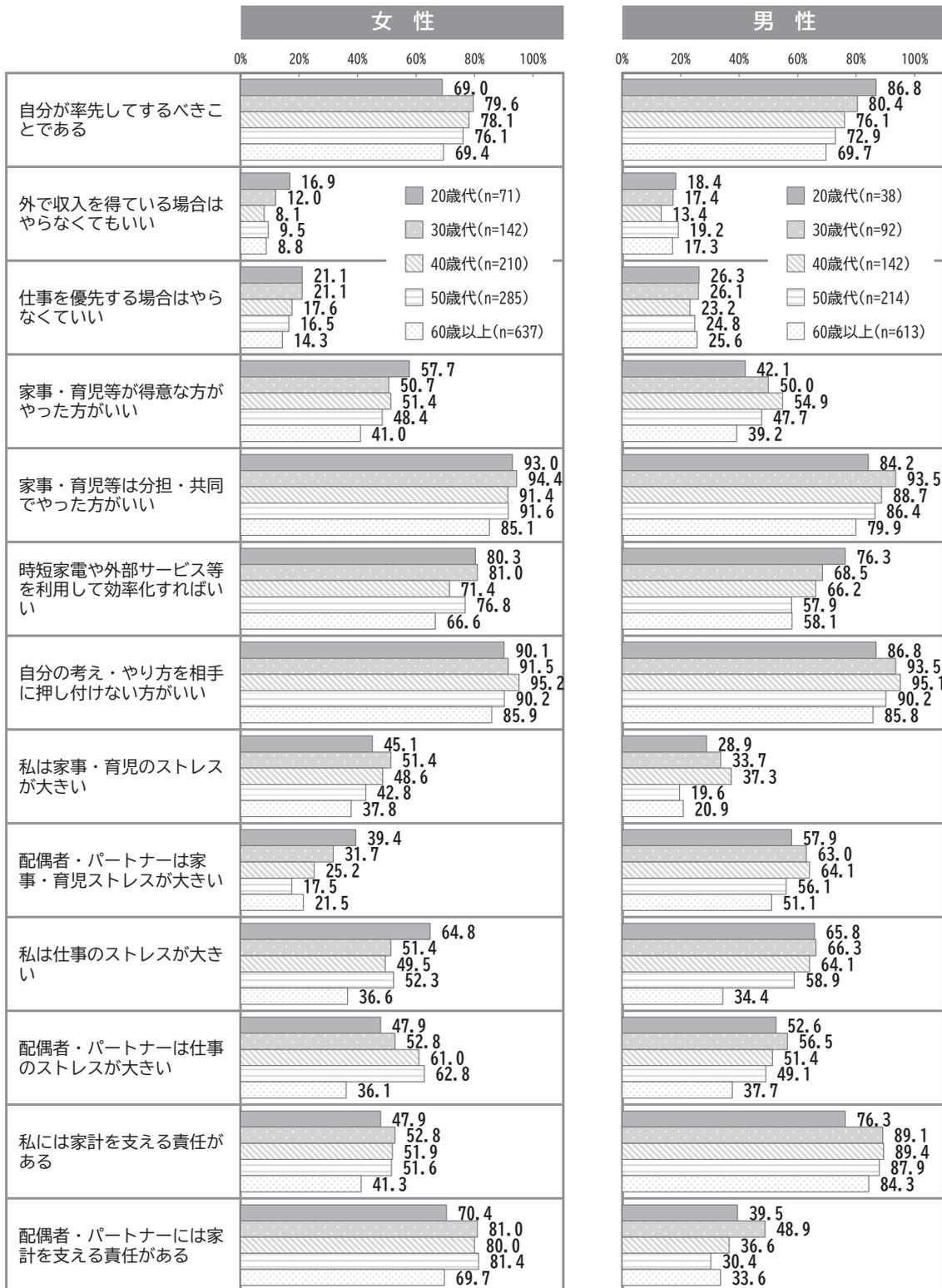
- 令和4年全国調査の結果と比較すると、奈良県では男女ともに「仕事を優先する場合はやらなくていい」「外で収入を得ている場合はやらなくてもいい」「家事・育児等が得意な方がやった方がいい」の割合が10ポイント以上全国に比べて低く、「家事・育児等は分担・共同でやった方がいい」が5ポイント以上全国に比べて高い。また、女性は「時短家電や外部サービス等を利用して効率化すればいい」の割合が全国に比べて5ポイント以上高く、男性は「自分のやり方を相手に押し付けけない方がいい」が全国に比べて5ポイント以上高い。

■令和4年度 新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた男女共同参画推進に関する調査報告書（内閣府）



《年代》

- 年代別にみると、男女ともに「家事・育児等は分担・共同でやった方がいい」「時短家電や外部サービス等を利用して効率化すればいい」「私は仕事のストレスが大きい」の割合が概ね年代が若くなるほど高い。女性では「家事・育児等が得意な方がやった方がいい」「配偶者・パートナーは家事・育児ストレスが大きい」の割合が、男性では「自分が率先してすべきことである」の割合が概ね年代が若くなるほど高い。
- 性別に比較すると、20歳代では女性は「家事・育児等が得意な方がやった方がいい」の割合が同年代の男性に比べて高く、男性は「自分が率先してすべきことである」が同年代の女性に比べて高い。30歳代では女性は「時短家電や外部サービス等を利用して効率化すればいい」が同年代の男性に比べて高く、30歳代から40歳代にかけて男性では「私は仕事のストレスが大きい」の割合が同年代の女性に比べて高い。



《共働き状況》

- 共働き状況別にみると、【共働き】正規×正規層では、男女ともに「時短家電や外部サービス等を利用して効率化すればいい」「配偶者・パートナーは家事・育児ストレスが大きい」の割合が他層に比べて5ポイント以上高い。女性では「私には家計を支える責任がある」「私は仕事のストレスが大きい」、男性では「配偶者・パートナーは仕事のストレスが大きい」「配偶者・パートナーには家計を支える責任がある」「自分が率先してすべきことである」「私は家事・育児のストレスが大きい」が他層に比べて10ポイント以上高い。
- 性別に比較すると、【共働き】正規×正規層では女性で「時短家電や外部サービス等を利用して効率化すればいい」の割合が男性に比べて10ポイント以上高く、男性は「配偶者・パートナーは仕事のストレスが大きい」「仕事を優先する場合はやらなくていい」の割合が女性に比べて高い。
- 【共働き】正規×非正規層や共働きしていない層では、女性で「配偶者・パートナーは仕事のストレスが大きい」の割合が男性に比べて10ポイント以上高く、男性は「私は仕事のストレスが大きい」の割合が女性に比べて高い。

